

入曽地区会・デジタル仲間の会共同企画 「出前スマホ講座」

詐欺サイト、便利なアプリ等紹介…



楽友会初めての試み、地区別出前スマホ講座が11月9日（木）と16日（木）に入曽地区交流センターで行われました。14人の参加者はスマホ経験もさまざまでしたが、操作に迷うとデジタル仲間の会の皆さんが即手助けに来て、スマホの便利な機能を身に付けていました。

まずは、最近の詐欺サイトや迷惑電話の実例を実際に画面で見ながら紹介、その見分け方、対策について話されました。よくよく見ると詐欺サイトにはアドレスや表現におかしな特徴があります。怪しいと思ったら無視する、開かない、2段階認証を使うなど、防止策も学びました。詐欺サイトを見破る目を持つことが大切だということが良く分かりました。続いて、生活に便利なアプリの紹介です。ニュースや防災情報、電気料金の詳細や使用履歴、スーパーのチラシなどが次々に紹介され、早速QRコードから実際に読み取ってみました。国のマイナポータル、県の健康作りサービスや狭山市の公式サイト、図書館予約、ごみ収集日等のアプリも紹介されました。最後にスマホ決済のメリットやデメリット、安全な使い方についての説明がありました。終わった後には参加者から「操作に迷っているとすぐに教えに来てくれて良く分かりました」「詐欺サイトの見分け方が分かったので注意しようと思いました」「いろいろ便利なアプリを紹介してもらったのでこれから活用していきたいと思います」等々の感想が聞かれました。

今回は2回の講座の1回目の内容をお知らせしました。2回目の内容は、次回11月29日・12月6日（水）9時30分からの狭山台地区で行われるスマホ講座の報告でいたします。また、来年も他の地区のスマホ講座を開催する予定です。日程や場所が決まり次第お知らせします。尚、狭山台地区にはまだ若干の空きがありますので参加ご希望の方は、直接デジタル仲間の会代表の岸田（☎ 080-1053-0705）までご連絡ください。



理事会報告

第54回理事会 2023年11月20日

バスツアーも間近に迫り、準備する物等の最終打ち合わせが行われました。楽しいバス旅行になりそうです。出前スマホ講座については来年早々の開催場所候補や、これからの講座をより多くの方に参加して頂くための方策について話し合いました。

また、毎年行われていた理事とクラブ代表者の新年会を、今年は一般会員の方々も交えて開催する方向で話し合いました。年に1度の総会での交流をもっと広げていきたいと思えます。入曽地区交流センターで、来年1月15日（月）か22日（月）に軽食をはさんでの会を検討しています。内容が固まり次第お知らせしますので、奮ってご参加ください。

活躍しています！同窓会員

楽友会理事であり、笑和会（旧人間科学研究会）の会長でもある松本さん。かねてより楽友会の今後の活動や発展について口にされていましたが、楽友会の仲間を増やすべく新しい会を立ち上げました。その名も「さやまジャーナル会」。ゆくゆくは楽友会のクラブの一つになることを目指しているそうです。



さやまジャーナル会を立ち上げて 松本功さん

さやま楽友会は、少子化、価値観の多様化などにより会員が減少傾向にあります。そんな現状を私は心底危惧しています。会としても種々な対策を試み、効果を上げてきてはいますが、更なる対策が必要のように思われます。そこで、さやま楽友会が「楽しい」「面白い」「入会したい」と人が集まるように、即実行できる試みとして新設クラブを考えてみました。

さやま市民大学の講座の一端を担っていたジャーナル関連学科は、2002年(平成14年)から2019年(令和元年)まで、約20年に亘ってほぼ毎年、市民ジャーナリスト養成講座として継続してきました。そして修了後は、年度毎に一緒に学んだ仲間同士で交流を楽しむ同級会が散発的に開催されてきました。ところが、期を越えた縦の集い、まだ見ぬ仲間との交流の場はありませんでした。私は、「期を越えたジャーナル修了生と楽しく交流できないかなあ?」、「家に籠っている仲間を外に引き出せば、フレイル防止が叶うのでは?」と思っていました。そこで20年を節目に自分が船頭役となり、「さやまジャーナル会」を発足させることにしました。講座の澤野講師、米田リーダーのお二人も長年縦つながりの会を作りたいと思い描いていたそうです。現在、数十人の方々からご賛同頂き、自由に楽しい交流が出来るよう、活動内容や方針について知恵を出し合っています。大人数、且つ個性派揃いの多様な趣味を持つ方々が満足できる活動をするにはどうしたら良いかを話し合い、「①発案された活動に賛同した者同士での小グループ活動を進める ②会全員での活動（勉強会、見学会&食事会等）も取り入れる ③形式にとらわれない自由な発想で、楽しく交流することを目指し、まずは試行する」との方向にまとまっています。今後、回を重ねながら修正を加え、より良い「さやまジャーナル会」にグレードアップし、魅力ある会にしたいと考えています。そして、ゆくゆくは楽友会のクラブの一つになり、楽友会を盛り上げる一翼を担いたいという夢を持って活動を進めていきます。



松本さんはNewsへの投稿でもお馴染みです。今回は以下に。

● コロナ禍を思う ●

コロナ菌が、人々を巣ごもり状態に追い込んでから久しい。第5類に緩和されたが、まだまだ自粛生活が必要だ。一人孤独に散歩する機会が多くなった。路傍に満ち溢れる香に、大自然の豊かさ、優しさを噛みしめている。時折牙を剥くこともあるが、大自然が営む全ての糧から無限の恵みを受けて生きていることを実感する。

人類は自然界の中の小さな生物にすぎないが、知恵と努力でその頂点を手に入れた。コロナ菌に対してはまだ道半ばであるが、頂点に居座り、もっと快適な生活を得ようと勝手気ままに自然破壊を続けている。更に、より美味しい食糧、より多くのエネルギーを求めて、人類同士で縄張り争いを止めようとしなない。他の野生生物も縄張り争いはするが、慎ましく生きる為の必要最小限の糧を自然界から得ているだけである。頂点に立つ人類は、飽くなき追求の後遺症であろうか、歳を重ねるに従い「夜よく眠れない」と嘆く。近くまで、「心地よく大自然と融合できる永眠」が忍び寄っているのに。